

ミニバス  
県大会

## 緑区勢がアベック準V

### 男子森の台、女子中山が



森の台ビクトリーミニバスケットボールクラブメンバー



中山ジュニアバスケットボールクラブ

同大会には、地区予選と県の秋季大会の結果を踏まえ、男女各32チームが出場。トーナメント形式で県の頂点を目指して戦いを繰り広げた。

「多くの支えに感謝」  
男子の部で準優勝を飾った森の台ビクトリーは、森の台小学校6年生を中心としたメンバーだ。昨

「第39回神奈川県ミニバスケットボール決勝大会チャレンジカップ」の決勝戦が1月26日に行われた。同大会の男子の部で森の台ビクトリー、女子の部で中山ジュニアがそれぞれ準優勝を飾った。

年の同大会では、初戦で敗退。悔し涙を流した。「今年は、どこからでも得点を入れられる、個々のレベルの高いチーム」と椎屋英一監督。大会の初戦では、大切な所でシュートを確実に決め、接戦を制した。「初戦を突破し、勢いがついた」と椎屋監督は振り返る。2、3回戦を順調に勝ち進み

迎えた準決勝では、前半で10点のリードを許してしまふ。だが、試合終了間際に同点に追いつき延長戦の末、勝利を収めた。

「決勝で惜しくも敗れたが、1年間の練習の成果が発揮できた大会だったと思う。本当に良いチームだった」と椎屋監督は話した。

また、最優秀選手にも選ばれたキャプテンを務めた三浦信哉君は「6年間ミニバスを通して多くのことを学べた。たくさんの方の支えがあったからこそ、準優勝できた」と笑顔で話した。

#### 全員バスケットを実践

女子の部で準優勝を飾った中山ジュニア女子は、中山小学校の5、6年生を中心としたチームで、

「全員バスケット」をスローガに掲げてきた。普段の練習は、学年に関係なく教え合う和気あいあいとした雰囲気。「教え合うことで1人ひとりの力の底上げができた」と名渡山茂コーチは分析する。

大会の初戦では、試合のペースを最初から握り、大差で勝利を収めた。「平均身長は他のチームに比べて低いですが、スピードなど、他チームに勝っている部分が多く、カバーできた。その後も2、3回戦を順調に勝ち進む。準決勝では、パスを円滑につなぎ、勝利をもぎとつ

た。「決勝も最後まで粘り強く戦ったが、もう一歩届かなかった」と名渡山コーチは話した。

と笑顔だった。

また、最優秀選手に選ばれた小石川凜さんも保護者の人が温かい飲み物を用意してくれるなど、リラックスして試合に臨む環境があった」と感謝の言葉を口にした。

また、最優秀選手に選ばれた小石川凜さんも保護者の人が温かい飲み物を用意してくれるなど、リラックスして試合に臨む環境があった」と感謝の言葉を口にした。